

## 7 支援金の効果的な活用により継続的に事業展開している事例の紹介

フォローアップ調査の対象団体を中心に、過去に「地域発 元気づくり支援金」を活用し、その後も発展的に事業を継続されている団体の皆様から、最近の活動内容や今後の事業展望等についてお伺いしました。地域づくり活動の参考となるような取組を、各地域からご報告いただいています。

地域振興局	タイトル	団体名	掲載ページ
佐久	囲碁文化の普及により交流人口を増やし地域の活性化を図る	囲碁の里信州小諸づくり委員会 (小諸市)	113
上田	地域住民によるまちづくり (地域の憩いの場所づくり事業)	しげの里づくりの会 (東御市)	114
諏訪	誰とでも楽しめるユニバーサルフィールドづくり	ユニバーサルフィールドづくり実行委員会 (富士見町)	115
諏訪	綿の湯跡地の利活用の推進	下諏訪温泉旅館組合、下諏訪財産区 (下諏訪町)	116
上伊那	アルプスに隠された駒ヶ根市の魅力再認識・全国発信事業	こまがね市民活動支援協会 (駒ヶ根市)	117
南信州	飯田地域ブランド開発事業 「飯田丘のまちバル」	飯田市中心市街地活性化協会	118
木曽	木曽地域の美しい景観づくり (環境保全・自然環境のための木曽地域の外来植物STOP事業)	木曽風景街道推進協議会 (木曽広域連合)	119
松本	児童館における学習支援・体験教室事業	NPO法人ワーカーズコープ (松本市)	120
北アルプス	フリーペーパー「いけだいろ」による地域の魅力再発見事業	信州池田活性化プロジェクト 「MapleTree」 (池田町)	121
長野	合宿誘致によるまちづくり (スポーツ振興、地域活性化など)	黒姫・妙高山麓大学駅伝大会実行委員会 (信濃町)	122
北信	地域振興のためのシェアスペースの活用	結文舎 (中野市)	123

## 囲碁文化の普及により交流人口を増やし地域の活性化を図る (囲碁の里信州小諸づくり委員会)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

平成 19 年に発足した「鈴木翁之寿碑顕彰会」を母体に、平成 23 年に委員会（構成団体：小諸商工会議所、日本棋院小諸支部、顕彰会）を結成。

活動目的は、囲碁文化の歴史顕彰、普及、交流拡大、諸団体との連携による地域の活性化です。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H28	幕末から明治の中頃まで、小諸で囲碁普及活動を行い門弟に慕われた本因坊家の逸材「鈴木善人翁」の足跡を巡り、囲碁の普及と交流を推進し、囲碁の歴史発掘を行い、小諸を囲碁のメッカとして発信し地域の活性化に寄与する。	1,103 千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

- 普及活動：（１）小諸市立東小学校との連携で、４年生対象「囲碁入門教室」開催、囲碁クラブ指導  
（２）一般と子ども対象の囲碁教室を北国街道ほんまち町屋館で開催（年 40 回）

交流拡大：真夏の「囲碁さんまい」、新春「囲碁さんまい」、「囲碁大会」、囲碁セミナー、小諸市民区対抗親睦囲碁大会等の諸事業を実施

諸団体連携：小諸市、商工会議所、こもろ観光局、日本棋院所属の棋士等

今後は、上記の諸事業の継続実施と内容充実により知名度をあげ、囲碁文化による交流拡大と地域の活性化を図ります。



【囲碁の里「信州小諸囲碁セミナー」】

### 取組の効果

南北佐久地域初の子ども囲碁大会開催（3回）、囲碁セミナー（4回）は全国的に知名度が広がり、全国から囲碁愛好者が参加しています。

また、佐久地域で子どもと女性の囲碁愛好者が増加し、令和元年に佐久地域で初めて小諸市立芦原中学校が長野県小中学校囲碁団体戦に初出場しました。

### ポイント

- 1 囲碁文化が持つ特徴を機会をつくって徹底的にアピールします。（教育効果、交流、老化防止、礼儀、社会性が身につく等）
- 2 組織の運営は、定期的に委員会を開催し、諸事業の内容を協議し意見交換を行っています。委員間で囲碁交流大会を開催しています。各委員は、過去の社会的地位等を脱ぎ捨て、対等な立場で話し合っています。
- 3 囲碁愛好者、囲碁教室の受講者へ情報提供を行っています。特に、囲碁教室の受講者への対応は、受講者目線と内容を工夫し、継続的に受講するよう工夫をしています。
- 4 マスコミ関係者との連携で、諸事業を実施する前に情報を提供し協力をお願いしています。
- 5 日本棋院（全国の支部）等の組織力を活用しています。
- 6 事業の財政面は、原則、参加者の参加費と行政と日本棋院の諸制度を活用して賄っています。委員はボランティア活動です。課題は、委員の高齢化と後継者がいないことです。

団体名 囲碁の里信州小諸づくり委員会（小諸市）  
連絡先 事務局 井沢 輝男  
ホームページ <https://igonosato-komoro.jp/>

## 地域住民によるまちづくり（地域の憩いの場所づくり事業） （しげの里づくりの会）

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

少子高齢化時代を迎え、お年寄りが増える時代、昔の様に隣近所のお付き合い助け合いが少なくなり、支えあって暮らす事が難しくなっている現状に有ります。

この課題を何とかしたいと考え、従来の公民館・児童館等では使用に制限があり又手続き等もあるため、誰もが自由に使える施設を作りたいと考えました。

「ここに来れば誰かに合える」「誰かと話が出来る」「友達が出来る・子どもと会話が出来る」など地域住民が気楽に集まり過ごせる場所、子どもからお年寄りまで気軽に交流が出来る場所として、「ふれあいカフェ」を作り地域の活性化に取り組んでいます。地域の皆様が気軽に集まれる居場所づくりを目指しています。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H28	・子どもからお年寄りまで住民の誰もが気軽に交流できる場所「ふれあいカフェ おらちのえんがわ」として施設を整備、運営を行った。 ・支援金により、空き店舗の改装、備品の整備等を行った。	2,553 千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

#### ①活動内容

- ・毎年8月12日 農協と協賛で花市を開催（盆花販売・焼き鳥・焼きそば・抽選会・ボンボン釣等）
- ・毎年2回 滋野保育園年長さんの絵を展示（展覧会、保護者の皆さん観覧）
- ・小学校学級支援6年生発表会（家庭科支援エプロン・エコバックなど作品発表、歌の披露）
- ・毎週土曜日 子ども向け将棋教室をボランティアさんが実施
- ・毎日放課後 子どもたちが宿題・ゲーム等を行っています。
- ・地域の方より書籍・漫画本・囲碁・将棋・おもちゃ等を寄付頂き本棚も現在棚がいっぱいになっています。
- ・令和元年9月 徳島市農協から視察 他 市内外から視察

#### ②今後について

市福祉地域包括の支援を頂き今後の方向性を検討して行くこととなり、近隣の活動地区を訪問し今後の事業に向けていく予定



【皆で趣味を楽しむ】

### 取組の効果

- ・平成28年8月開店から令和元年8月末現在（641日間）  
来店者 女性3,901人 男性3,696人 子ども4,053人  
合計11,650人（18.2人/日）
- ・現在 ボランティア 15名交代でお願いしています。延べ1,828人（2.8人/日）
- ・ここに来て、知らない方とお話が出来ました。  
また、子ども達も学年を超えた友達が出来ました。
- ・小学校も近い為、子ども達が立ち寄り遊んでいます。また、隣接する農協に来たついでに寄ったなど、地域の皆様の場になりつつあるのかなと思っていますが、まだまだ知らない方がおられますので誰でも気軽に寄っていただけるものにしていきたいと考えています。



【子どもの絵と寄贈された本】

### ポイント

- ・さらに地域の皆さんに寄って頂ける場所づくりをしていきたい。
- ・定期的なイベント、趣味の集まり等を開催し、より多くの皆様に利用をして頂く場所づくりを考えていきたい。
- ・ボランティアの方も再度募集し、より多くの地域の方に関わって頂きたい。

団体名	しげの里づくりの会（東御市）
連絡先	東御市滋野乙205-1 「おらちのえんがわ」農協滋野支所隣り （事務局 秋山 廣文）
電話	0268-71-7581
メール	shigeno@ozzio.jp

## 誰とでも楽しめるユニバーサルフィールドづくり (ユニバーサルフィールドづくり実行委員会)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

「いつでも誰とでも楽しめる場所」を「ユニバーサルフィールド」と定義し、この為の環境整備、機器の導入、人材育成などを行う。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H28	ユニバーサルフェス、ガイド育成、モニターツアー 等	3,750 千円
H29	ユニバーサルツーリズムイベントの実施、地域トラベルサポーター養成、養護学校との連携 等	6,670 千円
H30	ユニバーサルツーリズムに関する担い手づくり、特別支援学校、と観光施設の連携した受け入れ環境づくり 等	2,648 千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

- 諏訪地域振興局商工観光課、長野県観光部、健康福祉部、林務部等と連携したユニバーサルツーリズムの推進
- 県内外利用者の受入れ支援
- 県内外先進事例の紹介と実践
- 県内観光地域における事例紹介、受入れ支援



【移動知事室 29 年 7 月】

### 取組の効果

- 新聞、テレビ等における継続的情報発信による地域内意識の醸成
- 高齢者、障害者、家族、介助者、地域住民など多様な世代の参画
- 富士見町や長野県における取組の制度化  
(富士見町地域福祉課、長野県観光誘客課 など)

### ポイント

- ・ SNS を活用した情報共有、通信コストの削減（費用、手間）
- ・ 新聞テレビなどのメディア活用（プレスリリース、記者を活動に巻き込む など）
- ・ 高齢者、障害者、家族、介助者、地域住民などと共に創る。共に楽しむ。
- ・ 地域課題と地域資源、社会課題などを包括的に検討し、相対的に社会的インパクトがあり、地域的負担少なく、即効性のあるものから取り掛かった。

団体名	ユニバーサルフィールドづくり実行委員会（富士見町）
連絡先	藤田然 Fujita-zen@fujimikogen-resort.co.jp

## 綿の湯跡地の利活用の推進 (下諏訪温泉旅館組合、下諏訪財産区)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

中山道唯一の温泉宿場町として栄えた「下諏訪温泉」に多くのお客様がお越しになり少しでも長く滞在をしてもらうことを目標に事業を進め、温泉に親しみをもってもらい、歴史文化を後生に継承していく活動を進めている。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H28 年度	児宝安産縁結び・しもすわ (KAES) 開運ルートの開発および環境整備として、案内看板設置、リーフレットの作成。特設ホームページの作成。	1,371 千円
H29 年度	汲み湯スポットの案内看板、汲み湯文化を知ってもらうイベントの開催。(2回) リーフレットに汲み湯スポットを追加。	859 千円
H30 年度	汲み湯文化の紹介映像 (15分程度) の制作。 それを上映するイベントの開催。	608 千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

歴史ある「綿の湯」を活性化させ、古くからの文化を後生に継承していくため、食と温泉をテーマにしたイベントを2019年11月3日(日)に開催する計画である。

また、移動販売車による定期的な食イベントを企画して、まち歩きを楽しむ観光客が気軽に楽しめる場を提供する。現状、秋宮だけの観光ルートから上記の催しによる新たなまち歩きルート(滞在時間拡大)の開拓を目指す。  
秋宮→綿の湯跡→遊泉ハウス児湯(入浴)→まち歩き



【 イベントイメージ 】

### 取組の効果

看板、リーフレットの整備を進めていくと地元住民からも初めて知った。汲み湯をするようになった。などの声をいただいた。また、紹介映像については、インターネット動画共有サイト「YouTube」でも配信をしているため全世界から手軽に情報を見ることができる。

汲み湯を促すためのミストボトルの販売は、そこまで多くないが少しずつ定着してきている。

### ポイント

同じ思いを持ったメンバーを集め、ひとつの課題について話し合いを行い、工夫をこらしたイベントを開催していく。継続的事业ができるように利益を出せる仕組みづくり、商品開発を行う。

下諏訪温泉旅館組合(下諏訪町)  
連絡先 0266-28-2231  
メール info2231@shimosuwa.or.jp  
ホームページ <https://shimosuwa.com/>

## アルプ스에隠された駒ヶ根市の魅力 再認識・全国発信事業 (こまがね市民活動支援協会)

### 団体紹介 (私たちが目指しているもの)

こまがね市民活動支援センター「ぱとな」が駒ヶ根市の市民活動の拠点となるよう、設置者である駒ヶ根市と連携しながら、センター運営にあたる。一方、個々の市民活動の成長に寄与できるような市民団体の連携や関係機関への接続、印刷から文書作成支援等、活動団体からの要求にできる限り答えられる協会を目指している。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H26	未活用の観光資源を洗い出して駒ヶ根市の魅力を全国発信し、交流人口の増加や地域の活性化を図るため、情報誌の作成と環境整備を行う。	1,768 千円
H27	協働の意識の醸成を図るため、地域住民主体による観光資源の発掘や観光資源に係る環境整備を実施する。	547 千円
H28	観光誘客や交流人口の増加目指し、アルプスの山々に埋没しがちな魅力ある資源にスポットを当てた「駒ヶ根三十六景」を活用して市内外へのPR、イベント、環境整備などを実施する。	808 千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

H26 はプロの写真家と写真冊子を作成し、首都圏の写真愛好家をターゲットに配布した。H27 はアルプスだけではない、駒ヶ根市の景観の魅力を発掘するため、市民投票を開催し4,653人に投票いただいた。この投票結果から「駒ヶ根三十六景」を決定し、H28より「駒ヶ根三十六景」フォト・絵画コンテストを開催している。コンテストの応募数は第1回が153点、第2回が137点、第3回が165点と安定した出品数があった。また、第3回からは新たな良いところ発見にも取り組んでいる。現在、写真・絵画それぞれの魅力について検討しており、駒ヶ根の新たな「風景力」発信を考えている。



【第3回フォト・絵画コンテスト】

### 取組の効果

平成26年度に作成した冊子「風景の力を感じに……信州駒ヶ根へ」にはじまる、駒ヶ根の景観の魅力を発信するという事業を5年間継続しておこなってきた。最初に作成した冊子やコンテストのチラシも、協会員が交流をもつ東北から中国・四国地方までの各地の市民活動センターに持参または郵送により配布した結果、長野県内だけではなく、関東圏や中京圏の遠方からの応募があり、事業の効果を実感している。コンテストの入賞作品は市や観光協会、その他団体から提供依頼があり、多方面で活用している。

### ポイント

写真冊子やコンテストチラシについては、当協会に登録のある多方面の団体（現在89団体）に依頼するとともに、あらゆる機会をとらえて発信することにより、事業効果につながった。当初の目的であった駒ヶ根市の「風景の魅力」を県内外に発信することは、多くの協力者のお陰で達成できたものと考えている。今後も「駒ヶ根の景観の魅力」を発掘し、何らかの方法で発信し続けたい。

団体名:こまがね市民活動支援協会  
 所 在:駒ヶ根市中央16番7号  
           こまがね市民活動支援センター内  
 連絡先:0265-82-1150  
 URL:<http://www.patona-k.com/>

## 飯田地域ブランド開発事業「飯田丘のまちバル」 (飯田市中心市街地活性化協会)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

当協会は、飯田市中心市街地活性化基本計画及びその実施について協議するとともに、必要に応じてその事業を実施し、中心市街地活性化の総合的かつ一体的な推進を図ることを目的としている。主催する事業として「飯田丘のまちフェスティバル」や月1回の「りんご並木歩行者天国」等がある。それぞれ市民が主体的にかつ自主的に取り組む事ができるよう実行委員会を組織している。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H27	りんご並木歩行者天国イベントのテント整備等	1,603千円
H28	飯田ブランド開発事業「飯田丘のまちバル」 ロゴ、タペストリー作成、案内看板作成等	890千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

○飯田丘のまちバルの定着と更なるブランド化へ  
令和元年度で第4回目を迎えた「飯田丘のまちバル」前回まで定着を目標に取り組んできたが、今年から新たにブランド価値を高めていくよう取り組んでいる。南信州産の「食材、飲み物」をバルメニューとして提供している店舗を一目でわかるようにマップに掲載したり、地元の野菜を味わうことを目的に他の市民団体とコラボレーションし、南信州の「有機野菜」と「伝統野菜」を取り扱ったメニューを提供した。

今後とも地元の美味しいものが味わえるような取組みを充実させていく。

また、飲食イベントではあるが、まちなかを楽しむ企画として、タクシー協会、市民文化団体、中心市街地の呉服店等と連動した企画を充実させてきた。今後とも他団体との連携を強化していく。



【屋間から飲み歩き・食べ歩き・まち歩き】



【浴衣で参加するお客様も多い】

### 取組の効果

参加者のアンケートから

- 一度は行って見たかったけれども、店構えや開店時間等から少しはいりづらいお店に行くことが出来ました。料理も美味しいし、何より店の雰囲気を感じることが出来たのでよかったです。バル以外でもお店にいきます。(20代男性)
- 毎年楽しみにしています。飯田市の市街地を楽しくするイベントですので、末永く続いて欲しいです。(50代女性)
- チケットで気軽に色々なお店を回れるので、とても楽しいと思います。子供にも楽しめるとても良い企画でした。(40代女性)

### ポイント

- 実行委員会組織について  
飯田地域ブランド開発事業として取り組んだ「飯田丘のまちバル」も参加店により実行委員会を組織し主体的に企画運営を実施。経費についてもチケット代で自立運転をしている。

飯田丘のまちバル実行委員会（飯田市）  
連絡先 0265-52-1715  
（中心市街地活性化協会事務局）  
ホームページ：okabal.xyz  
facebook：@iidaokabal

**木曾地域の美しい景観づくり  
(環境保全・自然環境のための木曾地域の外来植物STOP事業)  
(木曾風景街道推進協議会)**

**団体紹介 (私たちが目指しているもの)**

木曾地域(塩尻市、岐阜県中津川市の一部を含む。)固有の景観、自然、歴史、文化等地域資源を最大限活用し、地域住民等が主体となり、地域資源の保全、改善による美しい魅力あふれる景観づくり、活力ある地域づくりを推進していく。

**地域発 元気づくり支援金の活用状況**

活用年度	事業概要	支援金額
H24	中山道一里塚へのシンボルツリーの植栽及び景観・環境整備	312 千円
H28	外来植物駆除講習会、駆除作業、パンフレット作成	496 千円
H29	シンポジウム開催、パンフレット作成、地元情報誌掲載による景観整備推進PR	578 千円

**最近の活動内容と今後の事業展開**

外来植物駆除講習会及び駆除作業を年1回実施(H29年7月(上松町)、H30年7月(木祖村)、R1年7月(大桑村))。

ボランティアガイドを講師に歴史や街並み保存についての研修を実施(H30年3月)。

外来植物に対する知識の向上、駆除に向けた取り組みを継続していくとともに、啓発ツールを活用し、地域全体での景観の保全に向けた活発な活動を推進していく。



【外来植物駆除作業の様子】

**取組の効果**

外来植物防除啓発パンフレットを多方面に配布したことで、外来植物の駆除に対する機運の高まりが見られた。特に、中学校の生徒会主催による駆除作業に地元住民も参加して実施されるなど、幅広い世代へ高い効果が得られたと考えられる。

また、景観整備について各町村や関係団体と情報共有し、意見交換をする機会を設けることで、木曾地域全体で問題意識を持つとともに、連携した取組の実施が期待できる。

**ポイント**

意見交換、情報共有することで問題意識の統一を図り、地域間、団体間での景観整備に対する温度差の解消につなげた。

木曾風景街道推進協議会  
事務局：木曾広域連合地域振興課  
連絡先：0264-23-1050  
FAX：0264-23-1052

## 児童館における学習支援・体験教室事業 (NPO法人ワーカーズコープ)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

2007年度松本市の指定管理受託により児童館・児童センターの運営に携わる。協同労働の協同組合の働き方は出資、経営、労働の三位一体であり、全組合員経営を実践。児童館・児童センターで目指していることは子どもが主体者（中心に据える）であり、生きる力をつける取り組みを増やしている自主事業に特徴がある。誰も孤立させない働き方、運営、利用者と向き合う姿勢は協同労働の目指す姿である。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H26	学習支援、体験教室（卓球教室、サッカー教室など）	896 千円
H27	学習支援、体験教室（木育、サッカー教室、卓球教室など）	1,069 千円
H28	学習支援、食育、体験教室、講演会（子どもの権利）	817 千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

継続している学習支援（元町児童館）では利用者が増加。小中合わせて5校の異学年が同じ空間で学習。毎週2回（水・土）講師は学生。年間利用者約374名。目標を持てる場になっている。

体験教室（木育）は地域の山に入り、生きる力を育む。山の達人と出会った子どもの変化が著しい。（サッカー教室）ではプロの指導に達成感を持てる子どもの増加。その他子ども達がやりたいことを具体的に地域の達人の力を借りて実践することが増加。

食育では地域と連携したハッピー食堂が継続活動。地域の高齢者の活躍と食の支援を繋げ、子ども達の生きる力をつけている。

今後もこれらの事業を継続し、より多くの子どもたちの居場所、地域の大人の居場所として定着していくよう児童館・児童センターの自主事業を充実させていきたい。



【元町学習支援の様子】

### 取組の効果

子どもたちの変化（達成感）自己肯定感の向上は著しい。主体的に意見を言い、考えて行動する力が育まれている。地域の大人の見守る姿勢の変化と関わることで大人も役に立つ充実感を持てるとの感想が増えた。地域と児童館が連携することが多くなった。

### ポイント

- 放課後の子どもたちと本気で向き合う職員の姿勢は一貫して大切にしてきた。誰かがやるではなく、自分がやるという当事者意識を高めてきた。
- \*子ども達の生きづらさを少しでも解消したくて始めた
- \*児童館のボランティア活動に興味を持ってもらうよう周知を強めた
- \*レッテルを張るのではなく、良いところを見る目を育ててきた
- \*保護者の理解に繋げるため報告会を設けた
- \*社団法人日本社会連帯機構の団体会員の説明をした
- \*助成金終了後の事業継続を考え、運営を考えた

NPO法人ワーカーズコープ松本事業所  
〒390-0807 松本市城東2-6-17  
ハイツリラ 101  
mail : naganojm@roukyou.gr.jp

## フリーペーパー「いけだいろ」による地域の魅力再発見事業 (信州池田活性化プロジェクト「Maple Tree」)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

信州池田活性化プロジェクト「Maple Tree」(以下、メイプルツリー)は、長野県池田町と周辺市町村の魅力再発見し、その魅力を地域内で共有すると同時に「よりよい地域をつくるために何ができるだろう?」「地域課題はどうすれば解決できるだろう?」と地域の人が思うキッカケをつくることを目的に活動しています。大学生や社会人の若者世代が中心となり「そこにあるけど、よく知らない地域のこと」に目を向けてもらうフリーペーパー「いけだいろ」の発行等を行っています。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H28	いけだいろ 2 年目。ページ数と発行部数の増加	300 千円
H29	いけだいろ 3 年目。3 周年を記念した「いけだいろ展」実施	381 千円
H30	いけだいろ 4 年目。自立自営に向けた仕組みづくり	487 千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

- ・平成 31 年 3 月に大町岳陽高校放送部の放送コンテスト作品として、メイプルツリーの今日までの活動について取材を受ける。「いけだいろ」の取材に同行してもらい、若い世代と親睦を深めた。同作品は県内大会で優秀な成績を収め、全国大会に進出した。
- ・平成 31 年度以降は、今まで以上に多くの外部ライターや地域団体の方から掲載記事を出稿してもらい、「いけだいろ」に新たな視点と多様性を持たせていきたい。



【大町高校放送部に取材を受けるメンバー】

### 取組の効果

- ・元気づくり支援金活用期間中に 6 号～16 号まで計 11 号約 20,000 冊を発行し、池田町や周辺市町村、銀座 NAGANO 等での配架を通じ地域の魅力を伝えた。また、過疎化や外国人技能実習生等の地域課題や社会的な内容も積極的に取り扱うことで大手メディアから取材を受け、全国に地域の現状を伝えられたほか、メンバーが池田町第 6 次総合計画審議委員や議会報モニター、広報モニターに選ばれ実際に地域課題を改善する役割を担った。
- ・当団体の取組を参考に新たに地域団体を立ち上げた方もいる。うち一団体からは「いけだいろ」に寄稿していただいております、共に地域振興の活動を行っている。

### ポイント

- ・元気づくり支援金活用期間終了後も持続的な活動ができるように、広告料とサポーター料(活動を応援して下さる個人や団体からの支援)により活動費を賄う仕組みを整えた。(補助金は、あくまで事業の基礎をつくるためのものであり、事業継続を意識して活動することが重要)
- ・「いけだいろ」が多彩な情報を発信する媒体となるよう、他の地域団体と積極的に連携している。現在は、ママさん団体や若者団体、教育系の団体や町外の団体計 4 団体+1 企業に毎号寄稿していただいている。(複数団体のハブとなることを当初から意識し活動した)

団体名：信州池田活性化プロジェクト「Maple Tree」  
E-mail：ikedamapletree@gmail.com  
Web サイト：https://ikedamapletree.jimdo.com/

## 合宿誘致によるまちづくり（スポーツ振興、地域活性化など） （黒姫・妙高山麓大学駅伝大会実行委員会）

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

信濃町と隣接の新潟県妙高市は、グリーンシーズンには箱根駅伝の出場を目指す大学駅伝部や実業団チームの合宿地として長年愛され、利用され続けている。また、国際リゾート観光地として歴史的・経済的に交流が盛んで、県を超えて連携する地域である。この地で駅伝大会を行うことにより誘客宣伝だけでなく、恵まれた自然環境を生かした合宿誘致の促進、スポーツ振興及び産業振興を図り、開催地のPRや地域活性化にも繋がることを期待し、平成28年度に実行委員会を設立、継続した活動を展開している。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H28	第1回黒姫・妙高山麓大学駅伝大会 駒澤大学等の首都圏の大学を始め全国から23チームの参加による駅伝大会を開催。多くの駅伝ファン、地域住民が沿道で声援を送るなど地域一体の活動を実施。大会後には選手と子どもたちとの陸上教室を開催、地域内外からの子ども達が、憧れの選手と交流を図りながら陸上の指導を受ける。	2,000 千円
H29	第2回黒姫・妙高山麓大学駅伝大会 上記イベントの他に、軽トラック市の開催等による選手応援・おもてなし事業を展開、町内外からの観戦客も楽しめるよう工夫、また次回大会に向けてのコース延長の検討、ランニングマップの作成など、更なる事業展開へ繋げてゆく。	2,350 千円
H30	第3回黒姫・妙高山麓大学駅伝大会 上記2か年のイベントに加え、事業構想時からの念願であった「飯綱町」が参加し、2区間増設した6区間の47kmにコース延長して開催。3市町での連携強化も図る。	2,300 千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

H31年度(令和元年)も第4回大会を開催し、参加応募は24チームと、例年盛り上がるものとなっており、子ども達への陸上教室も開催した。今後は大会日程の再調整による参加者の増加、更なる大会開催の周知や交通規制周知などを徹底し、選手や観客、地域住民に理解していただける大会づくりをしていきたい。また、陸上教室や大会後のコース利用など大会を軸にした地域活動も充実させ、今後も3市町で連携し継続して展開したい。

### 取組の効果

大会開催によって開催地周辺の知名度アップやスポーツ合宿による滞在等が増加した。3市町に跨る47kmコースができた事により、更にスポーツ合宿でのニーズに応える幅が広がった。また、陸上教室での選手との交流により、子どもたちへのスポーツ振興が図れた。

### ポイント

大会を継続維持するためには、強靱な組織（人・物・金）は不可欠である。資金確保には色々な手段を考え、ネットワーク等を活かしながら広く積極的に動くこと。



【第4回大会の様子

（信濃町黒姫陸上競技場）】

団体名：黒姫・妙高山麓大学駅伝大会実行委員会（信濃町）  
 連絡先：佐藤 義人  
 電話：090-2446-6509  
 ホームページ：sks@shinsnosports.or.jp

## 地域振興のためのシェアスペースの活用

(結文舎)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

地域で文化芸術や創作活動に関わる個人や団体が集まり、活動を広く情報発信する場と個々のつくり手同士のゆるやかなつながりをつくることを目的として、女性や若者のためのコワーキングスペースや、子育て世代が気兼ねなく集えるシェアスペースを提供し、地域の活性化や子育て世代の支援を目指している。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H28	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性や若者のためのコワーキングスペースや交流の場とするため、自分たちの手で空き店舗の改修を行った。</li> <li>子育て世代が利用しやすいよう本棚を備え無料での貸し出しや、親子を対象としたイベントなどを実施。</li> </ul>	1,761千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

- 地域の若手クリエイターが、「コワーキング&シェアスペース まちのアトリエ」として常時活用し、創作活動を行っている。
- 中野市内の生産者、飲食店、デザイナーなどの有志による「おいしいばらプロジェクト」を始動し、信州中野産食用バラのブランディング、商品開発などを行い、イベントで市内の飲食店によるオリジナルメニューの提供を行った。
- 行政等と連携して、地域の魅力をより効果的に発信するため、イベントの開催や広報誌のデザインなどに参画し、提案を行っている。



【親子向けワークショップ】

### 取組の効果

シェアスペースとしてイベントでの利用や、小さな子ども連れでも気兼ねなく訪問できる場所として利用されている。

また、地域でのイベント機会を創出し、市内外からの参加者が増えることで、地元商店街等への人出の創出につながるとともに、地域の情報発信につながっている。

地域だけにこだわらず、さまざまなことに興味を持つ人材や、ディレクショナルなことをやりたいという人材の育成にもつながっていききたい。

結文舎でのイベントをきっかけにして、新たな事業者との出会いにつながった例もある。



【食用ばらの商品開発  
(薔薇のシロップ)】

### ポイント

中野市内でコワーキングスペースの設置はまだ少なく、地元のアーティストやクリエイターを講師に迎えたワークショップ、子育て世代に向けたイベントの実施などで、地域の方々への認知度を上げ、シェアスペース等の活用が進むよう取り組んでいる。

団体名 結文舎（中野市）  
 連絡先 代表 水橋 絵美 中野市中央 2-1-35-3F  
 コワーキング&シェアスペース まちのアトリエ  
 ホームページ <https://yuibunsha.com/>  
 メールアドレス [yuibunsha@gmail.com](mailto:yuibunsha@gmail.com)